

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23593423

研究課題名(和文) 訪問看護ステーションの管理運営指標の開発

研究課題名(英文) Development of indicator for management in visiting nurse stations.

研究代表者

叶谷 由佳 (KANOKA, Yuka)

横浜市立大学・医学部・教授

研究者番号：80313253

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：ステーション管理者へのインタビュー調査の結果と文献レビューにより抽出された先行研究をもとに訪問看護ステーションの運営管理の定義を定め、管理運営指標を作成した。指標は、経営理念、計画、組織化、指示、評価調整の要素で構成し、これらの要素として何をすべきかの項目を検討していった。その際に、経営理念の達成、経営上黒字となること、スタッフの自己実現、利用者・地域のニーズの充足を意識した項目を設定すること、それらの目指すべき方向性を達成するために、何をすべきかを踏まえた記述とすることとし、各項目をしているかどうかのチェック方式の指標とした。また、どのように行うかのガイドも作成した。

研究成果の概要(英文)：The indicator for management in visiting nurse stations was developed after deciding the definition of management in visiting nurse stations based on interview for station managers and previous studies extracted by review. The indicators was structured by factors of management vision, plan, organization, direction and evaluation/coordination. We considered items to do as these factors. The items were statements to do toward achievement of management vision, surplus on business, realizing of staffs' aims, filling needs of clients and communities. The indicator was check system whether do or don't toward these directions. It was also developed the guide that contained how to do with the indicator.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：訪問看護

1. 研究開始当初の背景

厚生労働省老健局の「2015年の高齢者介護」の調査では、「現在の在宅にそのまま住み続けたい」と願う高齢者が約6割おり、国は在宅医療を推進している。そのため、在宅医療分野においてステーションの存在は重要である。しかし、ステーション新設件数は平成12年度を境に微増傾向にあり、新ゴールドプランの設置目標である9,900カ所にいまだ達成していない。

近年、ステーション数の伸び悩みについての諸問題が明らかにされ始めている。一方、経営能力の高さや経営の多角化等により、安定的な経営と事業の拡大で成功しているステーションも存在する。また、ステーションのコンサルテーション事業に取り組んでいる日本訪問看護振興財団は、運営課題解決を意識的に管理業務として実施できれば、多くのステーションは経営改善することができると報告している。さらに、成功しているステーションは管理者が経営学を学び、経営戦略を立てて実行しており、ステーション運営の成功は管理者の経営能力に関係しているとの研究報告もある。このことから、ステーション管理者が運営に対する知識や技術を修得することによって、ステーションの運営は改善されると考える。

しかし、ステーション管理者は、さまざまな経験・経歴をもった看護職が勤めており、管理能力にはばらつきが大きく、管理業務の経験がなくステーション管理者になる人が7割を占めていることが指摘されている。また、小規模経営が多く、管理者が研修等を受ける余裕のない場合が非常に多い。そこで、ステーション管理者が効果的なステーション運営を行うにあたって、簡便に自身の管理業務について振り返ることができ、運営の参考となる指標を開発する必要がある。訪問看護に関する指標については、現在までに訪問看護の質を保証するという視点より、The Outcome Assessment Information Set-The Outcome Based Quality Improvement(OASIS-OBQI)、質評価のためのガイドライン、高齢者対象の訪問看護の質指標が開発されているが、管理運営に関する学術的に検証された指標はな

い。看護管理の指標では、Management Index for Nurses ver2(MaIN2)が開発されているが、ステーション運営に重要である経営的視点が不足している。国外においても、成功的な運営を行っているhome care agencyを運営している管理者の特徴を明らかにする研究はあるが管理運営の指標についての研究はない。

2. 研究の目的

ステーション管理者が簡便に自身の管理業務をふり返ることができ、それを元に効果的なステーション運営ができるような管理運営指標を開発することである。

3. 研究の方法

ステーションの管理運営指標を開発するために、ステーション管理者インタビューや文献レビュー等により枠組を明らかにし、その後、専門家との協議をとって管理運営指標の具体的内容を明らかにし、管理運営指標を開発する。

4. 研究成果

(1)ステーション管理者インタビュー調査
A県内で訪問看護ステーション5社、介護事業所9社を起業した看護職者を対象とし、起業体験について半構成的面接を行った。その結果、訪問看護ステーションの3社は複数の看護職で共同起業しており、借入金をせず小規模で自由な展開ができる一方、経営面の苦勞をしていたことがわかった。訪問看護ステーション、介護事業所とも親族と起業している者は、多角経営で利用者拡大等の有利な面があるが、土地建物の確保、職員確保、育成の面で苦勞していた。看護職の起業者は、医療面の強みを生かし、看護を全面に出した運営をしていたが、経営や制度面の知識不足で苦勞していたことがわかった(表2-1、2-2)。結果より、訪問看護ステーションの管理運営指標は、経営面の知識、職員確保、職員育成、制度の知識を網羅した内容とする必要があると思われた。

項目	実施状況	実施内容	実施内容
訪問看護	実施状況	実施内容	実施内容
	実施内容	実施内容	実施内容
在宅療養支援	実施状況	実施内容	実施内容
	実施内容	実施内容	実施内容

高齢者訪問看護の質指標や在宅療養支援のための医療処置管理看護プロトコルがあった。さらに、時代のニーズに対応した訪問看護の質の保証と経営の安定を図っていくために、訪問看護機関・施設の機能評価と訪問看護サービスの2つの視点から評価できる訪問看護サービス質評価のためのガイドラインがあった。この結果より、訪問看護の質あるいは質の評価に関する考え方や評価方法の特徴は、提供した看護技術の質の評価や質の保証に焦点が当てられており、提供する看護の基盤となる訪問看護事業の管理運営に関して学術的に検証されたものはなかった。

(3) ステーションの管理運営指標の開発
 現在、公表されているもので訪問看護ステーションの管理運営指標の参考になるものをもとに共同研究者間で議論しながら、新たな指標について検討した。参考にしたものは、訪問看護の質保証と経営の安定を図っていくために開発された訪問看護サービス質評価のためのガイドライン、看護管理の指標である Management Index for Nurses ver2 (MaIN2)、訪問看護ステーションにおける安定的な経営管理のための自己評価尺度であった。については、A 訪問看護機関・施設の機能評価とB 訪問看護サービスの評価の2部構成となっており、A を参考にした。これは、全 60 項目あり、運営理念・組織、経営・人事・労務管理、看護サービスの運営基準、感染管理、事故・緊急対策、記録・情報管理、教育・研修・研究、連携の大きく 8 要素に分かれている。項目の特徴としては、それぞれの要素についてのすべきことを尋ね、「できている」から「該当しない」までの4段階で自己評価する内容となっている。については、計画、動機づけ、教育、コミュニケーション、組織、アウトカムの6つの要素に対し、45 項目で自己評価するようになっており、実施している、あるいは、アウトカムの状況のレベルを5段階で評価する内容とな

項目	実施状況	実施内容	実施内容
訪問看護	実施状況	実施内容	実施内容
	実施内容	実施内容	実施内容
在宅療養支援	実施状況	実施内容	実施内容
	実施内容	実施内容	実施内容

(2) ステーションの管理運営指標に関する文献レビュー

平成23年10月1日現在、医学中央雑誌Webで各キーワードに対して抽出された文献は、【訪問看護】×【質評価】14件、【訪問看護】×【質指標】16件、【訪問看護】×【質保証】3件であった。以上の33件および在宅ケア関連の書籍、MEDLINEを検討した結果、訪問看護の質の評価あるいは質の保証に関する指標は9種類であった。対象者に看護を提供することにより生じる状態の変化を客観的に評価し、その結果を質の評価とする意図で開発された Minimum Data Set-Home CareやOutcome Assessment Information Setがあった。また、提供する看護の質の保証のために開発された

っている。 については、尺度開発した結果、快適な職場環境の形成、資金の管理、サービスの拡充、利益の確保、生産性の向上、看護の質保証、市場調査の7下位尺度、25項目が開発されている。この尺度も、項目の内容は行うべき内容が記述され、「いつもそうしている」から「ほとんどそうしていない」までの4段階で評価するという特徴がある。3つの特徴として、何をしているかという「すべきこと」は明記されており、それらをしている頻度あるいは、実施しているレベルを段階的に設定し、それらから選択する自己評価方式となっていることが共通していた。また、すべき内容は記述されているが、何を目標してどのように、行っているのかを尋ねるような項目が含まれていないことが明らかとなった。そこで、看護管理の定義、訪問看護の法律等を踏まえ、訪問看護ステーションの運営管理を「住み慣れた場所でその人がその人らしく在宅療養が営め、利用者の視点に立った質の高い看護を提供するために、明確な経営理念を設定し、それに基づき、計画し、組織化し、指示し、評価し、調整するという管理業務を確実に運営すること」と定義した。そのため、指標は、経営理念、計画、組織化、指示、評価調整の要素で構成し、これらの要素として何をすべきかの項目を検討していた。その際に、経営理念の達成、経営上黒字となること、スタッフの自己実現、利用者・地域のニーズの充足を意識した項目を設定すること、それらの目指すべき方向性を達成するために、どのように行っているかを踏まえた記述とすることとし、各項目をしているかどうかのチェック方式の指標とした。また、それらの何をすべきかの後ろにどのように行いかの参考になるガイドを付けた指標とすることが、よいのではないかと考えた。そのことにより、すでに実施できている人については、目指すべき方向性に向けて実施しているかどうかの確認ができ、それらをどの

ように行ってよいかどうかわからない人については、後ろにつけたガイドを参考にすることにより、行うべき内容ができる指標となると思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計3件)

荒井幸子、細谷たき子、大竹まり子、小林淳子、森鍵祐子、叶谷由佳：看護職が起業した在宅介護関連事業所の起業形態とその経緯に関する研究、第18回日本在宅ケア学会学術集会、2013.3.15-16、東京

荒井幸子、大竹まり子、細谷たき子、森鍵祐子、小林淳子、叶谷由佳：看護職による訪問看護ステーション起業の経緯に関する研究、第71回日本公衆衛生学会総会、2012.10.26、山口

藤井千里、大竹まり子、森鍵祐子、鈴木育子、細谷たき子、小林淳子、叶谷由佳：訪問看護の質の向上のための指標に関する文献的考察、第16回日本在宅ケア学会学術集会、2012.3.18、東京

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
特になし

6. 研究組織

(1)研究代表者

叶谷由佳 (KANOYA, Yuka)

横浜市立大学・医学部・教授
研究者番号：80313253

(2)研究分担者

大竹まり子 (OTAKE, Mariko)
山形大学・医学部・准教授
研究者番号：40333984

森鍵祐子 (MORIKAGI, Yuko)
山形大学・医学部・助教
研究者番号：20431596

鈴木育子 (SUZUKI, Ikuko)
山形大学・医学部・准教授
研究者番号：20261703

細谷たき子 (HOSOYA, Takiko)
山形大学・医学部・教授
研究者番号：80313740

小林淳子 (KOBAYASHI, Atsuko)
山形大学・医学部・教授
研究者番号：30250806